

豪華出演陣 成功祝う

感動の舞台 客席も一体

5日間にわたってさまざまなジャンルの作品上映会や各種イベントを繰り広げてきた「島ぜんぶでおーきな祭」のオールエンディングが29日夜、官野濱トロピカルビーチで開催された。沖縄出身の人気バンド「かりゆし58」を中心に、ETIKINGのイトキンやORANGE RANGEのHIROKIIら人気ミュージシャンの歌と演奏に会場は酔いしれた。最後は映画祭に参加したお笑い芸人らもステージに集まり、テーマソング「笑顔のまんま」を歌い映画祭の成功を祝った。

「おーきな祭」 閉幕

糸満市西崎青年会の力強いエイサーで開幕の後は、MCのガレッジセールとスリムクラブが登場。ゴリや川田がレッドカーペットで観客から天ぶらやちんすこうを渡されるなど沖縄らしいエピソードを語って会場の笑いを誘った。

Go!thが加わり、トランペットやサックスの入ったフテン風アレンジの「オワリはじまり」が披露された。さらにETIKINGのイトキン、元SPGの島袋寛子、ORANGE RANGEのHIROKIIら豪華メンバーが次々と加わり、客席の興奮は最高潮に達した。ダンスミック風にした「ハイサイおじさん」と「花」では、ステージも客席も一体になって踊り会場は完全にお祭り状態。最後にゲストミュージシャン全員を呼び寄せ、「島ぜんぶでおーきな祭」として、初公開の新作「おーきな歌」を披露した。ライブが終わると、ブラックマヨネーズ、友近、ピースら人気芸人たちが舞台上に集結。明石家さんまがVTR

出演し「沖縄のみなさんは吉本に巻き込まれないように。私も巻き込まれないように日々自分をしっかりと持っています」と独特な調子のギャグで会場をなごませた。最後はステージも客席も全員が「笑顔のまんま」を熱唱し、歌が終わると同時に、ビーチには花火が次々と打ち上げられ、夜空に大輪の花を咲かせた。



ラストは全員でテーマソング「笑顔のまんま」を大合唱



かりゆし58を中心に、沖縄出身アーティストが結集



映画祭を支えた応援団とボランティアスタッフ

「沖縄発エンタメ今後も」

大崎実行委員長 閉幕式典で宣言

(左から) 実行委員長の
大崎洋吉本興業社長とP
R大使の宮川たま子

29日午後、官野濱市のビーチステージで「島ぜんぶでおーきな祭」のクローズングセレモニーが開催された。関係した自治体の代表者や沖縄県出身の国会議員があいさつした後、「JIMOTICM COMPETITION」や「クリエイティブ・フアクトリー」の結果が報告され、トロフィーが授与された。

続いて登壇した映画祭実行委員長の大崎洋吉本興業株式会社社長は「これからも沖縄から新たな芸能やエンタテインメントを発信していきたい」と抱負を宣言した。最後に、各市町村の応援団やボランティアスタッフがステージに招かれて勢ぞろい。それぞれが映画祭の喜びや来年への意気込みを力強く語った。

「哀川さん、天性のスター」

「Zアイランド」品川ヒロシ監督語る

僕の4本目の監督作「Zアイランド」は、哀川翔さんの芸能生活30周年作品として制作されました。ヤクザとゾンビが戦うという話は昔からやりたかった題材。この企画を提案してみたら、翔さんが「それだよ」と二つ返事で乗ってくれた。うれしかったです。翔さんから信頼していただけているのはありがたいこと。自分のやりたいことをパンパンに詰め込みました。どこをどう切り取っても画になる翔さんは、生まれつきのスターなんだと思います。



シーサーだより

映画祭関係者のバスを首から提げたまま街を歩くと、「映画祭の人?きょう宮迫(博之)、来る?」「すべらない話」、生でやらないの?」などとおぼろげに話しかけられる。沖縄の人たちはエンタテインメントに関する欲求と関心が強く、歳を重ねてもミスター精神が現役だ。客が忘れた折り畳み傘を届けるために店を出たおぼろちゃん、20分も帰ってこない。店は空っぽになり、仕方なく私が店番をするハメになる。「あー、よかった。ドラッグストアにははったわー」という勢い余ったおぼろちゃんの荒い息の一言に、「隣人はみんな友達だ」という無邪気なコミュニケーションを感じて、なぜか嬉しくなる。フレキシブルでサステナブル、いい意味で沖縄はオトナもコードモンのままなのだ。そうか、ボクたちを永遠に「コードモ」でいさせてくれるのがこの映画祭なのかもしれない。(麻生香太郎)

6万人が大歓声

レッドカーペット、39組登場

国際通り

最終日の29日、昨年につぎ2度目となる国際通りレッドカーペットが那覇市で開催された。むつみ橋交差点からてんぷす那覇までの約170メートルに赤いじゅうたんが敷き詰められ、俳優、お笑い芸人など39組を締めくくった。



「虎影」の音藤工



「鏡の中の笑顔たち」の豊菜



「フライランド」の品川ロシ監督、京川翔ら



特別ゲストのIMALU



特別ゲストの南明奈



「ココロ、おどる」「スイーツライフ」岸本司監督に聞く「沖縄の時空が色付け」

沖縄在住の岸本司監督による地域発信型映画「ココロ、おどる」は、慶良間諸島座間味村にやってきた、日本語を話せない倦怠期の外国人夫妻が、美しい座間味の海などに触れながら、やがて心を開いていく様を描く。



地域発信型映画2作を手掛けた岸本司監督

会話が成り立たない人たちが、いつのまにか関係性を成立させてしまうという、前々から考えていた企画と座間味の海が自分の中でピタリはまったんです。さらに沖縄の圧倒的な時間の流れや空間が、映画に独特の色をつけてくれたながら「沖縄映画」として屹立してくればと思います。監督デビューして約10年にして、今回が映画祭初参加。次の10年は、映画祭とともにさらなる挑戦に臨んでいきたいと思っています。

「父ありき、母のにおい」父子の関係映す 佐久間一行に聞く



「父ありき、母のにおい」の佐久間一行

地域発信型映画の茨城県つくば市作品「父ありき、母のにおい」は、ラーメン屋を営む主人公が、別れた母のにおい、恋人との間にできた息子といきなり暮らすことになる。ヒューマン作品。この中で佐久間一行は、主人公の親友で妻を亡くして愛娘と暮らす隆志を演じている。

「演技はほとんど初めてだったので緊張しました。娘役の眞方由菜ちゃんとは少しでも仲良くなりたくて、撮影の合間とか、いつも一緒に遊んでいたのですが、ある日お笑いの仕事で茨城から東京へ行き、夜遅く茨城の旅館に戻ってきたら、由菜ちゃんが『お父さん、お帰りの準備するよー』って待っていてくれた。うわあ、隆志と一緒に暮らして、すくすくうれしかったですね」。

県出身芸人ら植樹



29日午前、4月25日にオープンするリゾートモール「イオンモール沖縄ライカム」(北中城村)で、植樹祭などのイベントが開催された。「島せんぶでおきな祭」で沖縄を訪れているガレッジセール、スリムクラブ、ウーマンラッシュアワーらも参加。ライブを披露したほか、子どもたちと一緒に植樹を手伝った。

地域の子どもたちと一緒に植樹祭に参加したガレッジセール、スリムクラブら=29日午前、イオンモール沖縄ライカム

世界の記者から「フランス」まさしく「人のための祭典」



ジョエル・ルジャンドル・小泉(日本特派員ジャーナリスト) この映画祭はまさに「人々のための祭典」だと思えます。レッドカーペットや上映会場では、祭りの「ピープルス・フェスティバル」としての存在はもって世界にアピールできるはず。オプ・ピープルス・ハート(人々の心の女王)と呼ばれたように、この祭りの「ピープルス・フェスティバル」としての存在はもって世界にアピールできるはず。